

やまなし自然首都圏構想研究会 第6回自然首都圏構想推進部会概要

1. 日時

令和3年10月18日（月）14:00～15:00

2. 場所

山梨県庁本館2階特別会議室（テレビ会議システム）

3. 出席者（敬称略）

（ゲスト）田坂広志

（座長）東博暢

（委員）清水喜彦、中村成志、藤沢久美、山崎豪敏 ※五十音順、敬称略

（県）長崎幸太郎知事

4. 意見交換における主な発言

[議事『文化芸術による地域活性化』]

- ・ 目に見えない経済・資本を生み出すためには、人がつながる場の設定、そこに集まりたくなるようなフックが重要であり、その背景となるのが文化芸術。
- ・ 大きなストーリーをしっかりと決めて、誰のために、何を、いつまでに取り組むのかを明確にし、とにかく早く実行に移すことが重要。何がうまくいくかはわからないので、実行する中で軌道修正をするということがあってもよい。
- ・ 絵本やアートブックの発信拠点、ブックフェアの聖地といった取組が有望であり、まずは、小規模な出版事業者等の誘致に取り組むのがよいのではないか。
- ・ 「山梨といえば」というところをより明確にし、県民自身がそれを認識し、発信できるようにすることが重要。
- ・ これまでのコンテクストを引き継ぎながら、NFTアート等グローバルな動きを踏まえ、山梨からどのように新しいアートを創っていくか。国（文科省）においても、アート等に対する寄付の促進を検討しており、山梨からエコシステムを作って国に提言するということもありうる。
- ・ 山梨には素材はたくさんあるので、早く具体例を立ち上げることが重要。
- ・ アーティストが集まる柱を日本のどこかの地域に一つ立てようと思っており、山梨にはアミューズもあるので、ぜひ検討していただきたい。
- ・ 創発の場を創るという意味で「環境整備」に予算を使うのも一つの戦略であり、その1つの具体的方策は、県主導でコンソーシアムを作り、社会的連携（ソーシャルアライアンス）で、文化施設や文化活動などのほか、地域活性化や地域起こしに取り組まれている方々に、幅広く参加して頂くといったやり方が良いのではないか。
- ・ 県の持っている資本は、貨幣資本・金融資本以外に、関係資本や信頼資本など、様々あり、「目に見えない資本」をどう活用するかという視点が非常に重要。

など